

菊池隆さん ②

2011年3月11日、菊池隆さんは金石市の県沿岸広域振興局で保健環境福祉部の福祉課長をしていた。定年まであと1年。悔いのないよう自分の職務を勤め上げよう。庁舎2階で仕事をしていた、その時だった。

突然激しい揺れに襲われた。非常扉が作動し消火器が倒れ粉末が噴き出た。机の引き出しが飛び出し、キャビネットが倒れた。身の危険を感じ、サンダルから靴に履き替え、防寒着を着込んで、急いで庁舎の駐車場に避難した。

避難した後も、何度か余震で庁舎がきしんだ。その様子を、恐怖

混乱のなか「職務優先」

と不安の思いで見上げていた。市街地に戻ろうとする来客者を「津波が来たなら危ないから」と説得しとどまらせた。

そのうち、同僚の車載テレビや携帯電話のワンセグテレビで、庁舎から3・5キ海側にある金石中心部の街が津波に襲われるのを見た。大変な事態になっていることを知った。

寒さ、恐怖、不安、いろんな感情が脳裏に渦巻いていた。陸前高田の自宅にいるはずの妻みつよさんの安否も気になった。頭の中が混乱するなか、県職員としての職務を優先しようと自分に言い聞かせた。